

【事業報告】

2019年・2020年度 学友会事業報告

〔総括〕

令和元年・2年度の学友会事業は、これまで通り「会員相互の親睦を図る」、「母校の発展を後援する」を念頭に計画、元年度は順調に執行できたが、2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大半の行事が開催できなかった。

(1) 母校への後援活動について

令和元年度は例年通りの活動、2年度はほとんどの行事が中止もしくは参加不可となる。大学の多目的人工芝グラウンド整備に対しては募金活動および学友会からの寄付金で協力。

(2) 支部との連携活動について

令和2年3月以降の各支部総会はすべて中止。令和2年10月の「学友だより」では各支部に活動自粛を要請した。ただし、令和3年の兵庫支部のオンライン総会に参加した。

(3) 常置委員会について

令和元年度は例年通り開催。令和2年度の第1回理事会は中止、2～4回はオンラインで開催した。

(4) 学友会名簿2020年版の発行

広告収入も厳しい情勢の中、2年ごとに発行している会員名簿を2020年11月に発行した。

〔委員会報告〕

(1) 庶務委員会

通常の業務として理事会(4回、オンライン3回) および各委員会、打合せ会議等の開催案内および会議運営を行った。理事会は新型コロナウイルス感染症のため令和2年第1回は中止、第2・3・4回はZoomを用いたオンラインで開催した。

学友だより(年4刊)の発送、ホームページの定期的な更新および内容の充実を図った。会員情報管理、支部の役員名簿、卒業生就職先名簿など各種文書の取扱業務を行った。また、支部総会および同窓会開催時には、会員宛名シールの提供および案内状発送等の支援を行った。

(2) 編集委員会

「学友だより」を下記の通り年4回、計8号発行し情報発信した。

学友だよりの内容は、予定していた掲載事項と投稿された原稿、報告を掲載し、加えて随時送られてくる事項について掲載した。新型コロナウイルス感染症の影響で通巻235号の配布が遅れたが、通巻236号から通常どおりに配布できた。計8号の総頁数が88頁となり、前年度総頁数72より16頁増加した。

通巻231号	2019年(R1— No1)	令和元年4月10日発行	8頁
通巻232号	2019年(R1— No2)	令和元年7月10日発行	16頁
通巻233号	2019年(R1— No3)	令和元年10月10日発行	12頁
通巻234号	2020年(R1— No4)	令和2年1月10日発行	8頁
通巻235号	2020年(R2— No1)	令和2年4月10日発行	12頁
通巻236号	2020年(R2— No2)	令和2年7月10日発行	12頁
通巻237号	2020年(R2— No3)	令和2年10月10日発行	8頁
通巻238号	2021年(R2— No4)	令和3年1月10日発行	12頁
総頁数88頁			
通巻239号	2021年(R3— No1)	令和3年4月10日発行	12頁

(3) 企画委員会

1) 就職相談・懇談会

令和元年6月1日に4学年を対象とした、例年通り就職懇談会を開催致した。

西田理事(短大13回)の司会のもと第一部では、岩本大成氏(大学6回)、八木允人氏(短大17回)、竹井美佐希氏(短大13回)、中村登紀子氏(短大10回)に就職先の病院の特徴や予防医学、女性技師としてのライフスタイル、学生時代のエピソード等各々の個性あふれる講演をして頂いた。

第二部では錦副会長(54回)に面接のポイント、好印象の秘訣など講演を頂き、またQ&Aでは学友会理事やオブザーバーによる回答を頂いた。

講演後にはあずまやで恒例のBBQを行い、学生達の質問や交流を行った。

2)大瑠璃祭(学園祭)の相談コーナー

令和元年10月19日の大瑠璃祭(学園祭)にて恒例の相談コーナーを開設した。

企画委員の辻居賢一理事(短大15回)を中心に運営致して頂いた。

前回の反省点を含め事前予約とし30分以内の相談とした。

当日は放射線技術学会秋季学術大会と重なったが、相談員23名での開催となった。オープンキャンパスも同時開催で実施されており、実験室のX線装置等の説明を保護者、高校生に行った。降雨のためBBQは中止になったが、昼食にウナギご飯と豚汁(西谷副会長手作り)を交代で食しました。終了後には相談員は学友会室にて交流会を催した。

〔相談員〕

西谷源展副会長(44回)、正者智明理事(57回)、池和秀京都支部長(65回)、鈴木量理事(短大1回)、皿谷弘樹理事(短大2回)、黒田大吾理事(短大3回)、杉山淳子理事(短大12回)、上田幸弘氏(短大15回)、辻居賢一理事(短大15回)、岡田絵里菜理事(短大17回)、濱口かまり氏(短大17回)、田中安希子氏(短大18回)、森泰恵氏(大4回)、岩本大成氏(大6回)、小森将樹氏(大6回)、田中佑依氏(大6回)、村上智裕氏(大6回)、吉田隆人氏(大6回)、英奈都美氏(大6回)、出村京香氏(大6回)、村田汐里氏(大6回)、出石弘伸(57回)

令和2年は新型コロナウイルス感染症により大学キャンパスへの立ち入りも制限されたため、就職懇談会も大瑠璃祭の相談コーナーも開催できなかった。ただ、就職懇談会にむけての準備の際に各理事、講演予定者への学生からの質問に答えたものを、西田理事が編集して後日Web上にて閲覧できるようにした。

対面の生の声でない情報(活字)でも、学生のためになったようであった。

(4)名簿委員会

1)会員情報の登録および修正

平成30年度卒85名、令和1年度卒80名の卒業生を正会員として加えたほか、勤務先・自宅等の移動申請に伴って、随時修正を加えた(年間200件程度)。また、名簿発行にあたり、現況確認ハガキを全正会員に送付し(全3,400件に対して250件程度の変更あり)、情報の正確性の向上に務めた。

2)会員名簿の発行

令和2年度に2020年版会員名簿を発行した。広告収入が12社720,000円(前回13社750,000円)、初回頒布の収入が188冊376,000円(前回190冊380,000円)であった。また、発行に掛かる費用は合計1,112,297円(前回999,133円)であった。

(5)表彰委員会

1)表彰規定の改訂

「表彰規定」第2条(2)学友会功労賞の文言に下線部を加えて改訂した。

会長、副会長経験者または支部発展の貢献者または理事会が推薦する者

2)表彰対象者の選考

「表彰規定」および「名誉会員並びに表彰候補推薦内規」に則り、各支部からの推薦者を含めた表彰対象者の選考を行った。

3)2021年度学友会総会表彰者等

『学友会功労賞』贈呈者として前監事の山口和也氏(52回生)を理事会に推薦した。

『感謝状』贈呈者として小松龍一氏(63回生)、山村憲一郎氏(61回生)の2氏を理事会に推薦した。

『名誉会員』、『学友会栄誉賞』、『学友会奨励賞』の該当者はなし。

(6)財務委員会

1)一般会計

収入について、全体として103%の進捗(前期103%)であり、総額10,744,142円(前期10,470,430円)となった。

事業支出では、学友だより発行費が1号あたり23万円程度(前期24万円)、名簿発行費が111万円程度(前期100万円)でほぼ同額となった。また、令和2年度は就職懇談会などの支出がなかった分と、支部総会・理事会などの旅費交通費・会議費の支出がなかった分を合わせて、学生支援の一環として多目的人工芝グラウンド整備事業へ300万円を寄附した。通信費は153万円程度(前期140万円)、事務費については学友だより発送事務を外部委託としたため48万円程度(前期31万円)と増額となった。支出全体として96%の進捗(前期81%)であり、支出総額9,739,496円(前期8,210,380円)となり、繰越金は1,004,646円(前期2,260,050円)となった。

2)終身会費

会費収入は新入生185名(2年間)であり、5,550,000円であった。また、積立金(国債)による利息は863,835円であった。

支出では、一般会計へ会費収入を繰り入れたため、前期繰越金より利息分だけ積立額が増加し、総額42,947,029円となった。

3)21世紀創生基金

今期4件の寄附があり、総額376,795円であった。支出では、あずま屋整備の一環として多目的人工芝グラウンド整備事業へ100万円を寄附した。繰越金は4,547,643円となった。

4)寄附【多目的人工芝グラウンド整備事業】

学友会から1)一般会計から300万円、3)21世紀創生基金から100万円、合計400万円を母校の多目的人工芝グラウンド整備事業に寄附を行った。※上記1)、3)記載

以上

* 通巻 240 号 2021 年 7 月 10 日発行(2021-No.2)より